

[平成 18 年度設置]

富山大学大学院 生命融合科学教育部

認知・情動脳科学専攻 (博士課程)

生体情報システム科学専攻 (博士課程)

先端ナノ・バイオ科学専攻 (博士課程)

設置に係る設置計画履行状況報告書

国立大学法人 富山大学
平成 19 年 4 月 1 日現在

作成担当者

総務部総務課

ソウムカチョウ
総務課長

イトウ マサノリ
伊藤 正則

電話番号 076 - 445 - 6003

(夜間) 076 - 445 - 6003

F A X 076 - 445 - 6014

e - mail masaito@adm.u-toyama.ac.jp

目 次

1	調査対象大学院等の概要等	1
2	授業科目の概要	5
	認知・情動脳科学専攻	5
	生体情報システム科学専攻	7
	先端ナノ・バイオ科学専攻	9
3	施設・設備の整備状況，経費	11
4	既設大学等の状況	12
5	研究科・専攻・課程別教員組織の状況	15
	認知・情動脳科学専攻	15
	生体情報システム科学専攻	16
	先端ナノ・バイオ科学専攻	17
6	留意事項に対する履行状況等	18
7	その他全般的事項	19
	(1) 設置計画変更事項等	
	(2) 自己点検・評価等に関する事項	
	(3) 情報提供に関する事項	

大学院等設置に係る設置計画履行状況報告書

1 調査対象大学院等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 富山大学

(2) 大学院名

富山大学大学院生命融合科学教育部

(3) 大学本部の位置

富山県富山市五福3190番地

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
理事長			
学長	サイトウ トクソウ 西頭 徳三 (平成17年10月1日)		
研究部長 (研究科長)	選考中	ツダ マサアキ 津田 正明 (平成18年4月1日)	新設により、認可時は 選考中であったため

(5) 調査対象研究科等の名称，定員，入学者の状況等

(5) - 調査対象研究科等の名称，定員

調査対象研究科等の名称（学位）	認可時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
認知・情動脳科学専攻（博士課程）	4年	9人	36人	基礎となる学部名等 医学部医学科 薬学部 理学部 工学部
生体情報システム科学専攻（博士課程）	3	4	12	
先端ナノ・バイオ科学専攻（博士課程）	3	4	12	

(5) - 調査対象研究科等の入学者の状況

認知・情動脳科学専攻（博士課程）

報告年度 区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平均入学定員 超過率	備考
A 入学定員	(-)人 9	(-)人 9	()人	0.55 倍	
志願者数	(6) 6	(4) 4	()		
受験者数	(6) 6	(4) 4	()		
合格者数	(6) 6	(4) 4	()		
B 入学者数	(6) 6	(4) 4	()		
入学定員超過率 B / A	(-)人 0.66	(-)人 0.44	()		

生体情報システム科学専攻（博士課程）

報告年度 区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平均入学定員 超過率	備考
A 入学定員	(-)人 4	(-)人 4	()人	2.12 倍	
志願者数	(2) 10	(2) 8	()		
受験者数	(2) 10	(2) 8	()		
合格者数	(2) 10	(2) 8	()		
B 入学者数	(2) 9	(2) 8	()		
入学定員超過率 B / A	(-)人 2.25	(-)人 2.00	()		

先端ナノ・バイオ科学専攻（博士課程）

報告年度 区分	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平均入学定員 超過率	備 考
A 入学定員	(-) 4人	(-) 4人	() 人	0.87	
志願者数	(5) 5	(1) 2	()		
受験者数	(5) 5	(1) 2	()		
合格者数	(5) 5	(1) 2	()		
B 入学者数	(5) 5	(1) 2	()		
入学定員超過率 B / A	(-) 1.25	(-) 0.50	()		

(5) - 調査対象研究科等の在学者の状況

認知・情動脳科学専攻（博士課程）

報告年度 学 年	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備 考
1年次	[1] 6	[2] 4	[]	
2年次	[]	[1] 4	[]	
3年次	/	[]	[]	
計	[1] 6	[3] 8	[]	

生体情報システム科学専攻（博士課程）

報告年度 学 年	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備 考
1年次	[5] 9	[5] 8	[]	転専攻 先端ナノ・バイオ科学専攻から1名
2年次	[]	[5] 10	[]	
3年次	/	[]	[]	
計	[5] 9	[10] 18	[]	

先端ナノ・バイオ科学専攻（博士課程）

報告年度 学 年	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備 考
1年次	[1] 5	[1] 2	[]	転専攻 生体情報システム科学専攻へ1名
2年次	[]	[1] 4	[]	
3年次	/	[]	[]	
計	[1] 5	[2] 6	[]	

- (注) 1 4月20日現在で記入してください。
 2 []内には、留学生の状況について内数で記入してください。
 3 開設2年目以降は、前年度までの記入を残したまま、当該年度に記入してください。

(5) - 調査対象研究科等の退学者等の状況

認知・情動脳科学専攻（博士課程）

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成19年度	[0] 2 人	33.3%	左記のうち、 平成18年度入学者 2人
	(主な理由) 家庭の事情		

生態情報システム科学専攻（博士課程）

該当無し

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成19年度	[0] 0 人	%	左記のうち、 平成18年度入学者 人
	(主な理由)		

先端ナノ・バイオ科学専攻（博士課程）

該当無し

区分 報告年度	退学者等の数	入学者数に対する 退学者数等の割合	退学者等の数の入学年度ごとの内訳
平成19年度	[0] 0 人	%	左記のうち、 平成18年度入学者 人
	(主な理由)		

2 授業科目の概要

認知・情動脳科学専攻（博士課程）

（1）授業科目表

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
生命倫理特論	1		2							
先端生命科学特論	1		2							
情動・記憶神経科学特論	1		2		1	1				
行動・自律神経機能の中枢性 制御特論	2		2							
細胞内シグナル伝達系特論	1		2		1	1				
中枢神経遺伝子工学特論	2		2							
細胞・システム生理特論	1		2		1	1				
感覚認知システム情報特論	2		2							
脳増殖因子学特論	2		2		1	1				
神経病理学特論	1		2							
脳免疫学特論	1		2		1	1				
脳病態免疫学特論	2		2							
精神疾患学特論	1		2			1				
生物学的精神医学特論	2		2							
神経内科学特論	1		2		1	1				
精神行動薬理学特論	1		2		1					
脳病態薬理学特論	2		2							
行動神経科学特論	1		2							
脳型コンピューター工学特論	1		2							
心理物理学特論	2		2							
中枢神経構造学特論	1		2							
脈管系機能形態学特論	1		2							
神経系機能形態学特論	2		2							
運動器系の機能形態学	2		2							
機能的脳神経外科学特論	2		2							
認知神経心理学特論	2		2							
脳遺伝子発現解析実習	1		1							
侵襲的脳活動計測実習	2		1							
神経病理学実習	1		1							
脳サイトカイン解析実習	2		1							
行動解析学実習	1		1							
非侵襲的（神経生理学的）脳 活動計測実習	1		1							
非侵襲的（非神経生理学的） 脳活動計測実習	2		1							

脳身体相関解析実習	2		1						
脳機能診断学実習	1		1						
高次診断治療学特論	1		2						
脳機能再建学特論	2		2						
小児発達学特論	1		2						
神経・内分泌・免疫相関特論	2		2						
脳分子病態学特論	1		2						
応用薬理学特論	2		2						
神経障害制御学特論	1		2						
認知・情動脳科学特別演習	1~4	4						12	
認知・情動脳科学特別研究	1~4	10							

(2) 授業科目数 (変更なし)

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
2	42	0	44	[]	[]	[]	[]	

(3) 未開講科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1					
2					
3					
4					
5					
6					

(4) 廃止科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1					
2					
3					
4					
5					
6					

(5) 授業科目を未開講, 廃止としたことに係る大学の所見 (該当なし)

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目の数}} = 0$$

生体情報システム科学専攻（博士課程）

（１）授業科目表

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
生命倫理特論	1		2							
先端生命科学特論	1		2							
神経情報システム学特論	2		2		1					
分子細胞機能学特論	1		2		1					
構造生物学特論	2		2			1				
時間生物学特論	1		2			1				
生命情報工学特論	1		2		1					
タンパク質工学特論	2		2			1				
ゲノム情報工学特論	2		2			1				
生命代謝工学特論	2		2				1			
生体情報素子設計学特論	1		2		1					
生命計測工学特論	1		2			1				
バイオ計測素子工学特論	1		2		1					
生体計測・解析工学特論	2		2			1				
計算生物学特論	2		2							
神経系情報工学特論	1		2		1					
生体情報システム工学特論	1		2		1					
脳高次機能計測特論	2		2			1				
免疫制御特論	1		2							
免疫寛容特論	2		2							
受容体異常機構特論	1		2							
自己免疫学特論	2		2							
生体情報システム科学特別演習	1~3	4					5			
生体情報システム科学特別研究	1~3	10								

（２）授業科目数（変更なし）

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
2	22	0	24	[]	[]	[]	[]	

（３）未開講科目（該当なし）

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					

8					
9					

(4) 廃止科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1					
2					
3					
4					
5					
6					

(5) 授業科目を未開講, 廃止としたことに係る大学の所見 (該当なし)

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

未開講科目と廃止科目の計

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目の数}} = 0$$

先端ナノ・バイオ科学専攻（博士課程）

(1) 授業科目表

授業科目の名称	配当 年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
生命倫理特論	1		2							
先端生命科学特論	1		2							
ケミカルバイオロジー特論	1		2		1					
精密分子構築化学特論	2		2			1				
合成有機化学特論	1		2		1					
ナノサイズ機能性分子構造特論	1		2		1					
生体物質化学特論	1		2		1					
生体無機化学特論	1		2		1					
精密有機合成化学特論	1		2		1					
金属錯体化学特論	2		2		1	4				19.4.1 教授昇格に伴う変更 担当 會澤 宣一 教員資格審査19.7提出予定
微量金属分析特論	2		2			1	4			18.4.1助教昇格に伴う変更 担当 加賀谷 重浩 平成18年7月教員審査済 判定 可
生体高分子化学特論	1		2		1					
生体分子材料有機反応化学特論	1		2		1					
生物機能科学特論	1		2			1				
生体触媒設計工学特論	2		2			1				
先端ナノ・バイオ科学特別演習	1~3	4					==	3		18.4.1助教昇格に伴う変更 担当 加賀谷 重浩 平成18年7月 教員審査済 判定 可
先端ナノ・バイオ科学特別研究	1~3	10								

(2) 授業科目数（変更なし）

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
2	15	0	17	[]	[]	[]	[]	

(3) 未開講科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

(4) 廃止科目 (該当なし)

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1					
2					
3					
4					
5					
6					

(5) 授業科目を未開講, 廃止としたことに係る大学の所見 (該当なし)

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目の数}} = 0$$

3 施設・設備の整備状況，経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	土地購入				
	m ² 711,680(1,370) 663,857(1,367)	m ² 0(0)	m ² 0(0)	m ² 711,680(1,370) 663,857(1,367)					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎の改修				
	m ² 276,866(276,866) 276,134(276,134)	m ² (0 m ²)	m ² (0 m ²)	m ² 276,866(276,866) 276,134(276,134)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	111 室	187 室	955 室	22 室 (補助職員 10人)	4 室 (補助職員 4人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称		室 数			平成17年10月補正 助教授1名減			
	生命融合科学教育部		4 4 - 4 5- 室						
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種		視聴覚資料 点	機 械 ・ 器 具 点	標 本 点		
		生命融合科学 教育部	電子ジャーナル 〔うち外国書〕						
	計								
(6) 図 書 館	面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数				
	12,357 m ²		1,134 座席		995,000 冊				
(7) 体 育 館	面 積		体育館以外のスポーツ施設の概要						
	7,862m ²		弓 道 場 ・ 武 道 館 プ ー ル ・ テ ニ ス コ ー ト						
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	国 費
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円	
		共同研究費等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円	
	学生1人当り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		千円	千円	千円	千円	千円	千円		
学生納付金以外の維持方法の概要									

(注) 1 認可時の計画を設置認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。

2 1により記入の後、変更のあったものについては、変更部分を朱書きで見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度(丸数字)を「備考」欄に朱書きしてください。

なお、2年目以降に更なる変更があった場合には、前年度のものに朱書きを黒字に戻した上で、当該年度の変更を朱書きで見え消し修正してください。

3 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、《別紙様式2》により、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

4 既設大学等の状況

大学の名称	富山大学								備考
既設学部等の名称	修業 年限	入 定 員	編入 学 定 員	収 容 定 員	学位又 は称号	定員 超過率	開 設 年 度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍			
人文学部 人文学科 計	4	185 185	3年次 10 10	760 760	学士	1.04	昭和52	富山市五福3190番地	
人間発達科学部 発達教育学科 人間環境システム学科 計	4	80 90 170		320 360 680	学士	1.05 1.12	平成17	"	
経済学部〔夜間主コース内数 経済学科 経営学科 経営法学科 計	4	155 〔20〕 135 〔20〕 115 〔20〕 405 〔60〕	3年次 10 10	620 〔80〕 540 〔80〕 460 〔80〕 1,640 〔320〕	学士	1.05 1.20 1.04 1.20 1.08 1.10	昭和28 昭和49 昭和54	"	
理学部 数学科 物理学科 化学科 生物学科 地球科学科 生物圏環境科学科 計	4	50 40 35 35 40 30 230	3年次 10	200 160 140 140 160 120 940	学士	1.08 1.06 1.11 1.08 1.04 1.09	昭和52 平成5	"	
医学部 医学科 看護学科 計	6 4	90 60 150	2年次5 3年次10 15	565 260 825	学士	1.00 1.01	昭和50 平成5	富山市杉谷2630番地	
薬学部 薬学科 創薬科学科 計	6 4	55 50 105		330 200 530	学士	1.05 1.01	昭和51	"	
工学部 電気電子システム工学科 知能情報工学科 機械知能システム工学科 物質生命システム工学科 計	4	88 78 88 151 405	3年次 30	352 312 352 604 1,680	学士	1.04 1.05 1.09 1.07	昭和24	富山市五福3190番地	
芸術文化学部 芸術文化学科 計	4	115 115		460 460	学士	1.11	平成17	高岡市二上町180番地	
人文科学研究科	2				修士		昭和61	富山市五福3190番地	

文化構造研究専攻		5	10		1.90		
地域文化研究専攻		5	10		0.70		
計		10	20				
教育学研究科	2			修士		平成 6	"
学校教育専攻		6	12		0.92		
教科教育専攻		32	64		0.81		
計		38	76				
経済学研究科	2			修士		平成 3	"
地域・経済政策専攻		4	8		1.88		
企業経営専攻		4	8		4.13		
計		8	16				
医学薬学教育部						平成18	富山市杉谷2630番地
医科学専攻	2	15	30	修士	0.73		
(修士課程)							
看護学専攻	2	16	32	修士	0.72		
(修士課程)							
薬科学専攻	2	30	60	修士	1.60		
(修士課程)							
臨床薬学専攻	2	16	32	修士	0.94		
(修士課程)							
生命・臨床医学専攻	4	18	72	博士	0.92		
(博士課程)							
東西統合医学専攻	4	7	28	博士	0.36		
(博士課程)							
生命薬科学専攻	3	18	54	博士	0.69		
(博士課程)							
計		120	308				
理工学教育部						平成18	富山市五福3190番地
数学専攻	2	12	24	修士	0.83		
(修士課程)							
物理学専攻	2	12	24	修士	0.79		
(修士課程)							
化学専攻	2	10	20	修士	1.75		
(修士課程)							
生物学専攻	2	10	20	修士	1.50		
(修士課程)							
地球科学専攻	2	10	20	修士	0.55		
(修士課程)							
生物圏環境科学専攻	2	10	20	修士	1.05		
(修士課程)							
電気電子システム工学専攻	2	33	66	修士	1.33		
(修士課程)							
知能情報工学専攻	2	27	54	修士	1.17		
(修士課程)							
機械知能システム工学専攻	2	33	66	修士	0.95		
(修士課程)							
物質生命システム工学専攻	2	60	120	修士	0.94		
(修士課程)							
数理・ヒューマンシステム科学専攻	3	5	15	博士	1.00		
(博士課程)							
ナノ新機能物質科学専攻	3	6	18	博士	1.17		
(博士課程)							
新エネルギー科学専攻	3	5	15	博士	0.30		
(博士課程)							
地球生命環境科学専攻	3	5	15	博士	1.30		
(博士課程)							
計		238	497				

- | | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| | | | | | | | | | |
|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
- (注) 1 学校法人又は地方公共団体(公立大学法人)が、すでに設置している大学の学部、学部の学科、短期大学の学科及び高等専門学校学科について、大学、短期大学又は高等専門学校ごとに、状況を記入してください。
- 2 認可申請書の様式第2号(その1)に準じて作成してください。
- 3 「定員超過率」欄には、各修業年限に相当する期間(学年進行中の場合は、設置後経過した年数分)における入学定員超過率の平均を4月20日現在で記入してください。
入学定員超過率については、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- なお、学生募集停止中の学部等については、「-」を記入するとともに、「備考」欄に「平成 年度から学生募集停止」と記入してください。

5 研究科・専攻・課程別教員組織の状況
 認知・情動脳科学専攻(博士課程)

(1) 担当教員表
 (略)

(2) 専任教員数 (変更なし)

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
14	0	14	12					
(14)	(0)	(14)	(12)	[]	[]	[]	[]	

(3) 専任教員交代の理由 (該当なし)

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1			
2			
3			

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」 (該当なし)

--

5 研究科・専攻・課程別教員組織の状況
生体情報システム科学専攻(博士課程)

-

(1) 担当教員表
(略)

-

(2) 専任教員数 (変更なし)

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
13	2	15	5					
(13)	(2)	(15)	(5)	[]	[]	[]	[]	

(3) 専任教員交代の理由 (該当なし)

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1			
2			
3			

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」 (該当なし)

5 研究科・専攻・課程別教員組織の状況
 先端ナノバイオ科学専攻(博士課程)

-
-
-

(1) 担当教員表
 (略)

(2) 専任教員数 (変更なし)

認可時の計画				変更状況				備考
研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	研究指導教員	研究指導補助教員	計	助手	
11	2	13	3					
(11)	(2)	(13)	(3)	[]	[]	[]	[]	

(3) 専任教員交代の理由 (該当なし)

番号	職位	専任教員氏名	辞任(就任辞退を含む)等の理由
1			
2			
3			

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」 (該当なし)

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (17年12月5日)	「該当なし」		

7 その他全般的事項

- < 認知・情動脳科学専攻 >
- < 生体情報システム科学専攻 >
- < 先端ナノ・バイオ科学専攻 >

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況，今後の見通しなど
<p>情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本教育部は，新たな教育組織であることから，設置計画書提出後，教育研究活動に関する情報提供を以下のような方法で積極的に進める。 (1) 大学ホームページに教育・研究内容を掲載する。 (2) 大学院案内を作成し，関係ある大学・企業等に送付する。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 大学のホームページに教育・研究内容を掲載した。 (2) 大学院案内を作成し，関係大学及び企業等に送付し，PRに努めた。 (1) 生命融合科学教育部の発足式典を行い一般社会に大学院の広報活動を行った。

(2) 自己点検・評価等に関する事項

<p>設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見</p> <p>(別紙のとおり)</p> <p>自己点検・評価報告書</p> <p>a 公表(予定)時期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現時点では「自己点検・評価報告書」による公表時期は未定である。 <p>b 公表方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己点検・評価報告書を刊行後は，関係者，関係機関，関係企業及び希望があった学生に配布 ・大学ホームページ上に公開予定 <p>認証評価を受ける計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度に評価機関「大学評価・学位授与機構」の評価を受けるべく，学内で検討中

(3) 情報提供に関する事項

設置認可申請書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (19年 10月 1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)

設置計画履行状況報告書

- a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)
- b 公表時期(未公表の場合は予定時期) (19年 10月 1日)
- c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)

*教育部等のホームページに、設置目的、専攻の紹介及びカリキュラム、担当教員の氏名・専門などを掲載している。これ以外で、設置計画書及び履行状況報告書のどの部分を公開するか、今後検討する。

- (注) 1 項目は、1～6の項目により記入した事項以外で、認可時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。
- 2 記入事項は、原則として、設置認可申請書の「設置の趣旨及び特に設置を必要とする理由を記載した書類」の項目に沿って作成し、それ以外の事柄については適宜項目を設けてください。(記入例参照)
- 3 「(2) 自己点検・評価等に関する事項」については、認可時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。また、「A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、積極的な評価を行う場合、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
記入方法は、欄内には(別紙のとおり)とし、A4版1枚程度で作成した別紙を添付してください。
なお、「B 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。
- 4 「(3) 情報提供に関する事項」の「 」及び「 」の「c」について、未公表の場合には、公表後の取扱いについて記入してください。

大学院生命融合科学教育部の教育の趣旨・目的の達成状況に関する
総括評価・所見

総括評価： 積極的評価をする。

根 拠： 生命融合科学教育部設置の理念に基づき、博士課程の講義や演習を積極的に、しかも実質的に行っており、順調に進んでいる。

3大学の統合に併せて生命融合科学教育部が設置され、学生は医薬理工融合による各教育分野を履修することにより医、薬、理、工、各分野の学問、知識を学び、融合領域の目を持って研究を行うことが出来、幅広く、しかも実践的な教育により、これまでの学問領域を越えた研究者、技術者を育成することを目的としている。この趣旨に沿って発足した新大学院生命融合科学教育部は以下に記載の通り、共通科目として、生命倫理特論、及び先端生命科学特論を実施し大きな教育的効果を上げている事から積極的な評価が出来る。また、全国に新たな分野の大学院が誕生した事を広報し、優秀な学生の応募について周知した。

【特徴的な教育】

生命融合科学教育部共通科目(生命倫理特論、先端生命科学特論)の開設。

《生命倫理特論の実施》

各分野の教員がその分野における社会的な影響や責任について倫理と云う立場から講義を行った。また、講義の後半では討論を取り入れ、討論形式で学生自らが考えて理解を深めるように実施した。

特に倫理については各自の判断による部分が大きいので、いろいろな立場に立って判断する事が必要である。そこで、講義の後半では課題を与えて、学生間でそれぞれの立場に立ちながら、意見を述べて討論し、問題点や倫理性について理解を深めるように行っている。また、医薬と理工はキャンパスが離れているので学生の利便を図るため、初めての試みとして本年の倫理の講義を双方向の通信装置を利用して行った。

《先端生命科学特論の実施形態》

生命融合科学教育部の最も重要な講義と位置付けて、各分野の融合と理解を深めることを目的として実施している。各教員の研究紹介を兼ねて、研究発表形式で一時間当たり二人の割合で講義を行った。学生は各教員がどのような専門研究を

行いどのような考え方を持っているかを生で聞く事ができ、学生のみならず教員同士が互いの分野を知り合うことが出来、非常に成果のある講義である。これこそ融合部が本来出来る講義である事が実証された。また、討論では、留学生からは英語での質問も多く出され、対応にも英語が使用される等国際的な内容となつて非常に高度の講義となった。また本年は、上記の研究紹介を兼ねた発表並びに外部から招待した講師の講義を聞いて学ぶ事も単位に認めていることから、学生は種々の講演会に出席し、講義の一部として単位を取得している。生命融合科学教育部の特別講義は実践的な講義として非常に有意義な方法であった。また、学会発表にも評価の対象として単位の認定を行っている。

なお、各教員の発表については生命融合科学のテキストとして冊子に纏め発刊している。今後これらのテキストを基に教育の教材として用いる事が可能となった。

講義の内容： 生命融合科学教育部に所属する医薬理工の教員が、各自の専門研究分野について、基礎から先端分野の応用やトピックスまで、わかりやすく説明、教授した。学生に医薬理工を跨ぐ学際的知識や技術、手法の吸収と、学生自身の専門と異なる分野から学ぶ新しい発想を持ってもらうことを意図している。

方法： 毎回、生命融合科学教育部に所属する医薬の教員1名、理工の教員1名の計2名ずつ研究紹介をPCとLCDを用いて行った。各発表につき、40分の研究紹介の後、20分程度、学生と教員からの質疑討論を行う形で進めた。また学生には、毎回その会の研究紹介について、学んだことやそこから発想したことなどを小レポートとして書いてもらった。社会人など出席がどうしても少ない学生には、さらにレポートを提出してもらった。

回数：全18回

発表人数： 16回は2名、2回は1名の計34名の教員が発表

聴講学生数：単位取得者は、他教育部1名を入れて10名（出席は毎回3～6名）

教員数等：出席教員は毎回6～10名（融合部教員総数は42名）

新大学院の質的向上を図るため優秀な学生の確保のため広報活動等を行った：

平成18年7月に生命融合科学教育部の設置祝賀会を行ったが、その際、新大学院の生命融合科学教育部の内容や学生募集要項等を紹介するためにパンフレットを作成し、他大学関係、富山県内外の、官公庁、企業等に頒布し広く広報活動を行った。また、全国の国公立大学の関係学部229カ所及びに富山県内外の関連企業56社にも送付した。